

埼玉県を観光地として活性化させるための取り組み

埼玉県は、訪日外国人の都道府県別訪問率が1.2%と低く、2025年の魅力度ランキングでも最下位となるなど、観光地としての認知度や魅力があまりないという現状がある。そこで本論文では、国内外から埼玉県への観光客を増やし、経済的な効果をもたらすためには、どのような取り組みが必要かという問いを設定した。この問いに対して、他の県にはない埼玉県独自の魅力ある観光地を中心として、埼玉県内で複数の地域を巡ることで1日中楽しめるような仕組みを作る必要があるという仮説を立てた。研究方法として、埼玉県の観光資源を自然、文化・歴史、その他の資源に分けて調査するとともに、県の観光施策や今後の方針を把握するため、埼玉県庁職員への質問紙調査を実施した。また、宿泊型観光の重要性について埼玉県で既に行われている取り組み事例を基に検討し、奈良県や島根県の事例を参考に、観光拠点を中心とした周遊型観光の可能性を考えた。その結果、埼玉県には独自性の高い多様な観光資源が点在していることや、〈旬〉や〈強み〉を生かした観光プロモーションの有効性が分かった。その一方で宿泊観光客が少ないという課題も明らかになった。そのため、点在している観光資源を宿泊型観光や周遊型観光へ発展させる必要があると考えた。以上のことから、埼玉県を観光地として活性化させるためには、他県にはない独自の観光資源を中心として、それらを点ではなく線や面として結び付け、宿泊を伴う周遊型観光を推進することが重要であると結論づけられた。このことから、本論文で設定した仮説は妥当であり、埼玉県を観光地として活性化させるための有効な方向性を示すものとして証明されたと言える。